

メジャーコース

片道2～2時間半

長者原～雨ヶ池～坊ガツル

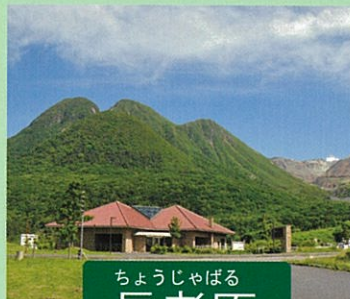
約1000m

約1330m

長者原登山口から雨ヶ池を通り坊ガツルを目指す、最もメジャーなルートです。森の中をアップダウンを繰り返しながら進みます。初心者向けですが浮石などもあるので、しっかり登山の装備を整えてから入山しましょう。

01 長者原登山口

長者原周辺には450台収容できる駐車場やトイレがあります。ビジターセンターで情報収集した後に、タデ原湿原を横切って長者原登山口から雨ヶ池を目指します。



長者原

坊ガツルに行く前にチェック

坊ガツルまでは徒歩しか手段はありません！しっかりと「登山」になるので登山靴、雨具、地図、リュックなど基本的な登山装備はもちろん、季節や天候に合わせた準備を整えてから登山を楽しみましょう。また、登山届も忘れずに提出して下さい！



登山届



くじゅう登山のルールとマナー

坊ガツルキャンプ場



坊ガツルにはトイレや炊事場が整備された無料のキャンプ場があり、ここを拠点にくじゅう連山を長期で楽しむこともできます。予約などは必要ありませんが、周辺には希少な植物が生育しており、多くの方の努力によりこの自然が守られています。そのため野焼きの防火帯（草が切られているところ）にはテントを張らない、ゴミは持ち帰る等ルールを守って坊ガツルの自然をお楽しみください。

比較的平坦な登山道

片道2～2時間半

吉部～暮雨の滝～坊ガツル

約950m

くじゅう連山の北側、吉部登山口から坊ガツルを目指すルートです。登山口からしばらく進むと木の根っこにつかまりながら登る急斜面があります。それを乗り越えると比較的平坦な登山道から林道を進み坊ガツルを目指します。

01 吉部登山口



登山口の手前に広い有料駐車場があり、その先の登山口からスタートです。しばらく進むと木の根っこをつかんで登るような急斜面が続く、ここを過ぎると比較的平坦な登山道へと入っていきます。



森の中の急斜面

02 暮雨の滝

吉部登山口から1時間ほど進むと左手に暮雨の滝に降りる分岐があり、5分ほど急斜面を降りると暮雨の滝に出会うことができます。冬は一面が凍る神秘的な姿が見られますが、滑りやすいので注意しましょう。滝を見た後はもとの登山ルートに戻り、坊ガツルを目指します。



鎌倉時代から天台宗・法華院白水寺として栄え、現在は登山者憧れの山宿として人気の山荘。九州で一番標高の高い場所にある温泉としても知られています。



法華院温泉

02 雨ヶ池



登山口から木々の中のルートを進むと森が開け、木道のある雨ヶ池に到着します。名前の通り、大雨が降った後には水が溜まる場所です。

03 坊ガツル 約1230m

法華院などの寺院「坊」の近くに水場「ツル」があることから「坊ガツル」と名づけられました。



約53haの広さがある坊ガツルは2005年、国際的に重要な湿地としてタデ原湿原と共にラムサール条約に登録されました。美しい草原は、地元の有志やボランティアの手により野焼きや環境保全活動によって維持されています。芹洋子さんが歌った「坊ガツル賛歌」発祥の地としても知られています。



リンドウ



アケボノソウ

坊ガツル

02 鉾立峠



歴史を感じる石畳の「鍋割坂」開けた窪地「佐渡窪」を過ぎ、坊ガツルの南の玄関口「鉾立峠」に到着します。古くは梓峠（ほこんとう）と呼ばれた由緒ある峠です。

くたみ分れ



沢水登山口との分岐になる「くたみわけ」春には4000本の山桜が咲き誇る、人気のお花見スポットです。ここから林道に入り、鉾立峠を目指します。

沢水展望台へ



01 一番水

県道669号沿い「レゾナイトクラブくじゅう」の第3駐車場が登山者用として開放されています。大きな看板が登山口の目印です。



いちばんみず 一番水

古くからの表参道

片道2時間半～3時間

一番水～鉾立峠～坊ガツル

約850m

約1365m

古くから法華院を目指す表参道の一部として知られるルートです。石畳の「鍋割坂」静かな窪地「佐渡窪」荒々しい「鉾立峠」と自然の様々な表情を満喫できます。

坊ガツル ルート

おすすめ 3ルート

長者原
吉部
一番水

坊ガツルは周囲を三俣山や平治岳、北大船など1600～1700m級の山々に囲まれた盆地で標高は約1230m。くじゅう連山のほぼ中央にあり、くじゅう登山の拠点となっている場所です。坊ガツルまではいくつものルートがありますが、今回は代表的な3つのルートを紹介します。